

IPBES 第 8 回総会の概要と今後の展望

アンドレ・マダー
高橋康夫
生物多様性と森林ユニット
IGES

2021 年 8 月

生物多様性と生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム(IPBES)は、「生物多様性の保全と持続可能な利用、長期的な人間の福利と持続可能な開発のために、生物多様性と生態系サービスの科学と政策のインターフェースを強化するために、これに賛同する各国によって設立された独立した政府間機関」である(www.ipbes.net)。IPBES は国連の機関ではないが、国連環境計画(UNEP)が IPBES 事務局を支援している。主要な意思決定は、IPBES の加盟国で構成される IPBES 総会で行われ、2013 年からほぼ毎年開催されている。第 8 回 IPBES 総会(IPBES-8)は、2020 年に開催される予定だったが、世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期され、2021 年 6 月 14 日から 24 日にオンラインで開催された(IPBES-8 の報告書(英文):<https://ipbes.net/event/ipbes-8-plenary>)。本会議に先立ち、2021 年 6 月 3 日から 9 日まで IPBES ステークホルダー・デーが開催され、幅広い主体の参加のもと、IPBES を支援する地域や国のプラットフォーム、非政府のステークホルダーの活動についての情報共有や議論があった。

新たに始まる IPBES 評価

IPBES-8 では、「生物多様性、気候、水、食料、エネルギー、健康の間の相互関係に関するテーマ別評価」および「生物多様性の損失の根本的要因、変革の決定要因及び生物多様性の 2050 ビジョン達成のためのオプションに関するテーマ別評価」に関するスコーピングレポートの草案が議論され、最終的に承認された。これを踏まえ、「生物多様性、水、食料、健康の相互関係に関するテーマ別評価」(略称:ネクサス評価)および「生物多様性の損失の根本的要因、変革の決定要因及び生物多様性の 2050 ビジョン達成のためのオプションに関するテーマ別評価」(略称:社会変革評価)の 2 つの評価の実施が承認された。2021 年 7 月 19 日から 9 月 13 日にかけて、両評価に参加する専門家の推薦募集が行われている(詳細:

https://ipbes.net/notification/call_for_nominations/experts_nexus-and-transformative_change-assessments)。

IPBES 評価の専門家への応募には、各国政府または専門家の所属する組織からの推薦が求められる。国内では、日本政府による推薦を希望する専門家を環境省が公募していて、希望者は所定の書類を 2021 年 8 月 23 日までに提出することが求められている(詳細:

<http://www.env.go.jp/press/109857.html>)。推薦を受けた専門家(環境省から 8 月 30 日までに推薦の可否を通知予定)は、9 月 6 日までに各自 IPBES ウェブサイトより応募する必要がある。

ワークショップ報告書

IPBES は、2 つのワークショップ報告書の完成版を総会に提出した。ワークショップ報告書は、IPBES 評価報告書に求められるレビュー、交渉、検討、総会での承認の手続きを経ない点で、評価報告書とは大きく異なる。1 つ目は、今般の新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の危機を受けて 2020 年 7 月に開催されたオンラインワークショップ(<https://ipbes.net/pandemics>)の議論を基に作成されたもので、感染症のパンデミックリスクと自然との関係について分析している。このワークショップ報告書は 2020 年 10 月に発表された。2 つ目の「生物多様性と気候変動」(<https://ipbes.net/events/launch-ipbes-ipcc-co-sponsored-workshop-report-biodiversity-and-climate-change>)は、2020 年 12 月に IPBES が気候変動に関する政府間パネル(IPCC)と共催したオンラインワークショップの議論に基づいて作成されたもので、2021 年 6 月に発表された。以上 2 つのワークショップ報告書は、通常の IPBES 評価同様の承認プロセスを経おらず、総会が正式に歓迎(welcome)するのではなく、報告書の作成について主催者と参加者に総会が

感謝の意を表する(thank)扱いになった。ただし、今後の IPBES 評価の実施に際して、執筆する専門家にこの 2 つのワークショップ報告書を考慮するように求める決議が含まれた。

この 2 つのワークショップ報告書を含む過去の IPBES 報告書すべての日本語の解説資料が環境省と IGES により作成されているので、ご関心のある方はぜひともご参照いただきたい (<https://www.iges.or.jp/jp/projects/ipbes/results>)。

その他の作業

IPBES は、上記のような報告書の作成以外にも幅広い取り組みを行っている。総会では、次回総会(IPBES-9)までの期間における、能力養成に関するタスクフォース、知識とデータに関するタスクフォース、先住民と地域コミュニティの知識体系に関するタスクフォース、政策ツールと方法論に関するタスクフォース、シナリオとモデルに関するタスクフォースの暫定的な作業計画を承認した。これらはすべて、IPBES-8 報告書(<https://ipbes.net/event/ipbes-8-plenary>)に掲載されている(「Decision IPBES-8/1: Implementation of the rolling work program of the Intergovernmental Science-Policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services up to 2030」の附属書にも詳細が記載されている)。

今後の総会日程と会場

IPBES-8 では、第 9 回総会を 2022 年に開催することが決定したが、具体的な日程は未定。開催地については、加盟国による招致の意思表示がなかった。今後もなければ、事務局のあるドイツのボンで開催される見込みである。また、新型コロナウイルスの感染拡大状況に応じて、オンラインで開催される可能性もある。第 10 回総会は、ホスト国である米国政府との合意が得られれば、2023 年 4 月から 5 月にかけて、米国ウィスコンシン州のマディソンで開催される予定。

IPBES に関する今後の機会と成果物

今後数ヶ月の間に、IPBES の作業に貢献する 3 つの重要な機会がある。これらは、IPBES の第 1 期作業計画の一環で進められている 3 つの評価: 価値観評価(<https://ipbes.net/values-assessment>)、持続可能な利用評価(<https://ipbes.net/sustainable-use-wild-species-assessment>)、侵略的外来種評価(<https://ipbes.net/invasive-alien-species-assessment>)の外部レビューである。最初の 2 つは次回総会(IPBES-9)で、残りの侵略的外来種の評価は IPBES-10 で審議される予定。現時点では以下のレビューが進行中または予定されている:

- IPBES の概念枠組(Conceptual Framework)の利用状況と影響に関する分析ペーパーのレビュー(2021 年 9 月 30 日まで)
- IPBES 価値評価の政策立案者向けサマリー(SPM)の 2 次ドラフトの外部レビュー(2021 年 10 月頃)
- 企業と生物多様性に関する評価のスコーピングレポート草案の外部レビュー(2021 年末にかけて)
- 侵略的外来種評価の本体報告書の 2 次ドラフトと政策立案者向けのサマリー(SPM)の 1 次ドラフトの外部レビュー(2021 年 12 月から 2022 年 2 月の間に予定)

IPBES に関する最新情報、リンク、および詳細情報は、プラットフォームのウェブサイト (www.ipbes.net) で閲覧可能である。

公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES)

〒240-0115 神奈川県葉山町上山口 2108-11

Tel: 046-826-9601 Fax: 046-855-3809 E-mail: iges@iges.or.jp

www.iges.or.jp

公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES) は、アジア太平洋地域における持続可能な開発の実現を目指し、実践的かつ革新的な政策研究を行う国際研究機関です。

この出版物の内容は執筆者の見解であり、IGES の見解を述べたものではありません。

Copyright © 2021 地球環境戦略研究機関 無断転載を禁ずる